

覚えておくと世界が変わる ミクソリディアンスケール、短期マスターコース vol.01

どうも、大沼です。

ロック、ポップス、ジャズ...、もう「ポピュラーミュージックのほぼ全てのジャンル」と言ってもいいほどの領域で理解が必須である、

『ドミナント7th(X7)コード』

と、そのドミナント7thコードの基礎となっている、

『ミクソリディアンスケール』

の二つ。

これらは、他の教材でもそれなりのページ数を割いて解説しているものですが、今回「短期集中講座」ということで、周辺の知識を含めて一気にマスターしてしまいましょう。

まずはそもそも、ミクソリディアンスケールは、チャーチモードの7種で言うと、アイオニアンを基本(1番目)にするならば5番目のスケールですね。

チャーチモードそれぞれのスケール(モード)と、調性上で対応するコードは以下の様になっています。(※メジャーキーの場合)

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| I、アイオニアンスケール | XM7(I M7) |
| II、ドリアンスケール | Xm7(II m7) |
| III、フリジアンスケール | Xm7(III m7) |
| IV、リディアンスケール | XM7(IV M7) |
| V、ミクソリディアンスケール | X7(V 7) |
| VI、エオリアンスケール | Xm7(VI m7) |
| VII、ロクリアンスケール | Xm(♭ 5)(VII m7(♭ 5)) |

これらの細かい分類や機能は、別途配布している【ギターと音楽の教科書】などのテキストで解説していますので、詳しくはそちらをご覧ください。

(※趣旨が変わってしまうので、チャーチモードそのものについての話は今回割愛させていただきます。)

という事で、V-Iなどのコード進行でも、アドリブやソロ(リード)プレイでも頻繁に登場する、ミクソリディアンスケール周辺の知識を学んでいきます。

■ミクソリディアンスケールを使いこなす為の基礎知識

さて、すでに学んで知っている人もいますが、まずは大元の知識として、ミクソリディアンとドミナント7th(X7)の、基本的なスケールポジションとヴォイシングを確認しておきましょう。

他に配布している教材では、トニックをC音にして解説している事が多いので、このテキストでは、ブルースでよく出てくるkey=Aを想定して、トニック(ルート)はA音にしたいと思います。

ではまず、スケールよりも、コードヴォイシングの方が最初に把握しておくべき数が少ないので、まずはそちらから見ていきましょう。

譜例1、A7、6弦ルート、重要ヴォイシング

※6弦のルート音省略系

押さえ方としては、左の小節は通常のバレーコードですね。二つ目の方は2弦8フレットを小指で押さえ、b7th(m7th)(※ルート音Aに対してG音)が追加されています。

右の小節の方は、譜例中の指使いを参考にしてください。(※一つ目のコードは、6弦のルートを親指で押さえる方法もあります)

続いてスケールですが、この講座では、

- 1、Aミクソリディアンスケールの重要ポジション
- 2、F#フリジアンスケール(=Aミクソリディアンスケール)の重要ポジション
- 3、Aメジャーペンタトニックスケール

4、Aマイナーペンタトニックスケール

この4種を覚えます。

いきなり4種類と言うと、少し多いと感じるかもしれませんが、それぞれを関連させて見ていくと、どれかがどれかのポジションの中にすっぽり収まっているか、もしくは大部分が重複しているような構造になっています。

この様に、知識は覚えれば覚えるほど繋がっていきますので、一番最初だけ踏ん張れば、どんどん習得が楽になっていくものです。

大概の場合、スケールというものは、メインとなるポジションを一つと、そのポジションの左右にあるポジションを把握しておけば、ほぼほぼ、実際の演奏面ではどうにかなるものです。

(※1つポジションを覚えると、実質2~3オクターブ程度の範囲をカバーでき、それ以上の音域を一気に使うフレーズや状況は比較的少ないので)

そしてその、「1ポジション+α」の学びを少しずつ増やしていけば、いつの間にか指板上を縦横無尽に駆け巡れるようになります。

もしこの講座でゼロからミクソリディアン関連を学び始める場合は、情報量に面食らうこともあるかもしれませんが、一つずつ覚えていけば必ずマスター出来ますので、焦らずにいきましょう。

■実際に覚えるべきスケールとそれらの関連性

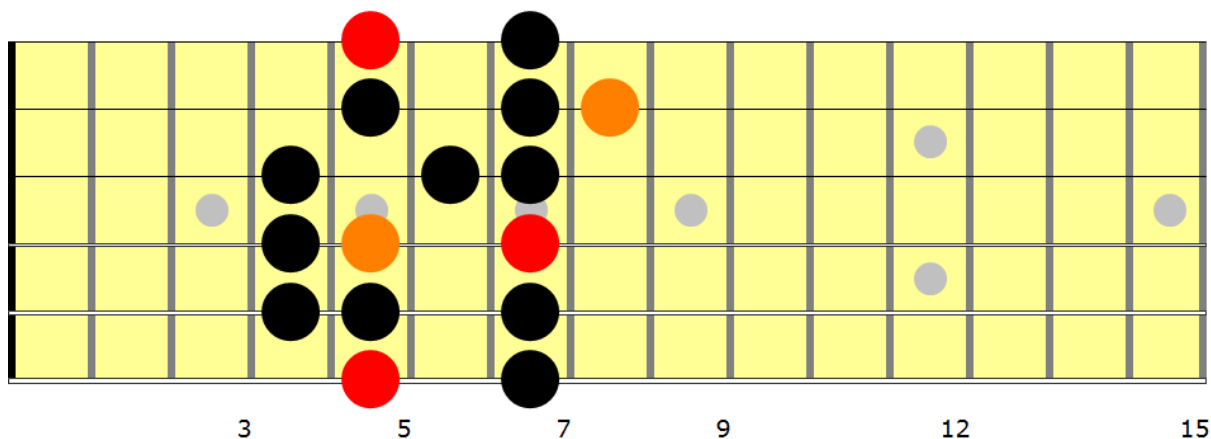
それでは実際に、このテキストで学ぶスケールポジションを見ていきましょう。まずは、一番基本となる、ミクソリディアンのブロックポジションからです。

スケールのインターバルは、**tonic**、**M2nd**、**M3rd**、**P4th**、**P5th**、**M6th**、**m7th**となります。

特徴音となる、m7thの位置と、その音が加わることによってもたらず響きを感じ取るように、意識して弾いていきましょう。

図1、Aミクソリディアンスケール、6弦トニック重要ポジション

(※以下、全ての指板図でトニックを赤丸、ミクソリディアンの特徴音であるm7thを黄丸で表記しています)



このポジションの弾き方は、以下の様なものが基本かと思います。2～1弦上を弾くとき、左手が1フレット分ボディ側にズレる感覚を掴んでください。

譜例2、Aミクソリディアンスケール、6弦トニック重要ポジション、演奏例

mf 中 小 人 中 小 人 中 小 人 薬 小 人 薬 小 人

T 4 6 7 5 7 8 5

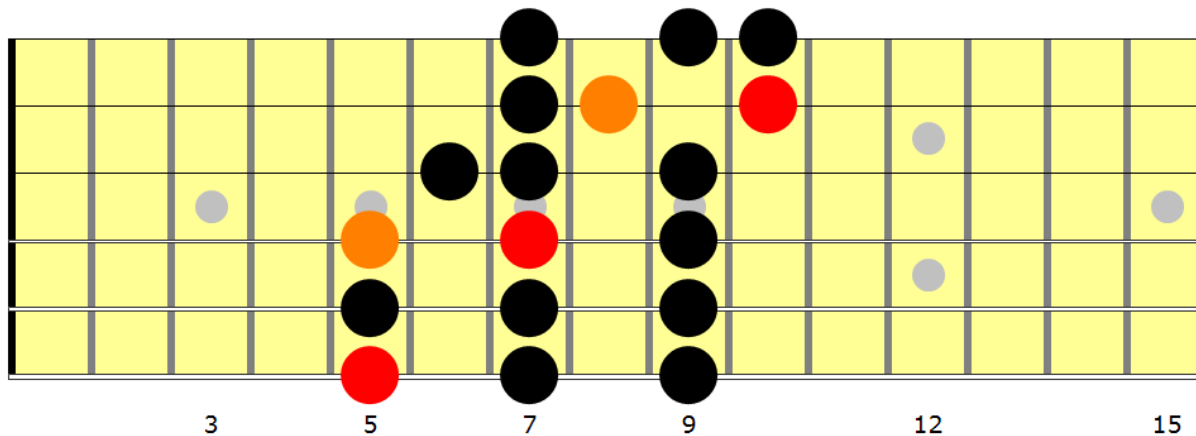
A B 5 7 4 5 7 4 5 7

(※下降も同じ指使いで弾いてみてください)

上記のブロックポジションが、6弦から1弦に向かって、およそ真下方向に音を辿っていくものだとしたら、次の3ノート・パー・ストリング・スケール(※以下3npsと略)の弾き方は、ボディ側に展開するもの、と言っても良いかもしれませんね。

図2、Aミクソリディアンスケール、3nps、6弦トニック重要ポジション

(※3npsは、1本の弦上で3音ずつ構成音を弾いていく方法です)



これらのポジションの弾き方は、最終的には自由なのですが、基本からしっかりと学びたい場合は、別途配布している【3ノート・パー・ストリングスケールマスター講座】等(※特にvol.08辺り)を参考にしてもらえれば、と思います。

そして、これらのポジションと、譜例1に載せた6弦ルートの代表的なヴォイスिंगが、指板上で重なり合って見えるようになると良いですね。

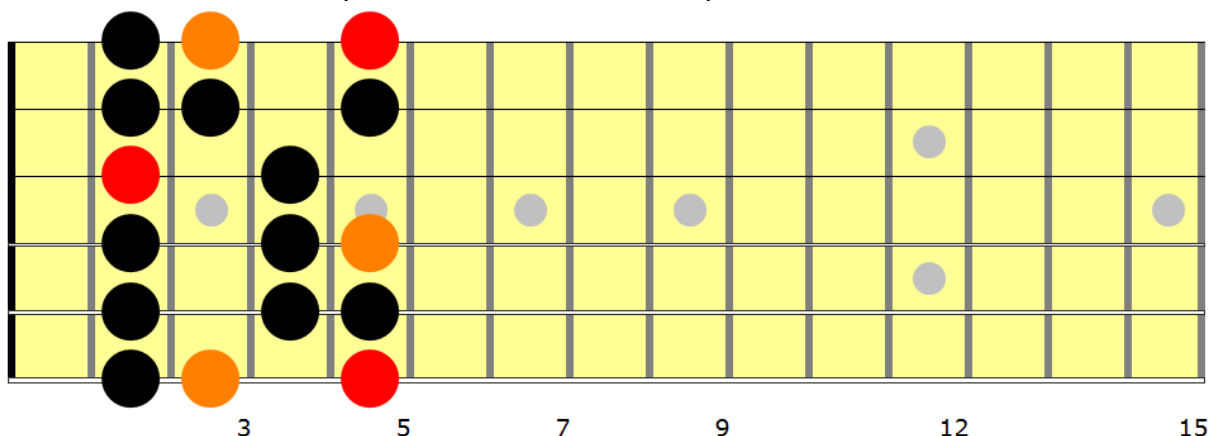
続いて、6弦5フレットのトニック(A音)から、ヘッド側にスケールを展開した場合の、F#フリジアンスケールのポジションを見ていきましょう。

F#フリジアンとAミクソリディアンはDキーの基準スケールである、Dメジャー(アイオニアン)スケールと構成音が同じです。

今はどちらかと言うと、ドミナント7th(X7)コードを基準に見る、ブルース的な見方をしているので、Aミクソリディアンを1度のスケールの様に扱っていますが、Aミクソリディアンは元々Dキー時の5度のスケールですね。

なので、Dメジャー(アイオニアン)=F#フリジアン=Aミクソリディアンとなります。

図3、F#フリジアンスケール(=Aミクソリディアンスケール)、6弦トニック重要ポジション



※6弦5フレットに小指を置いて弾き始めます。

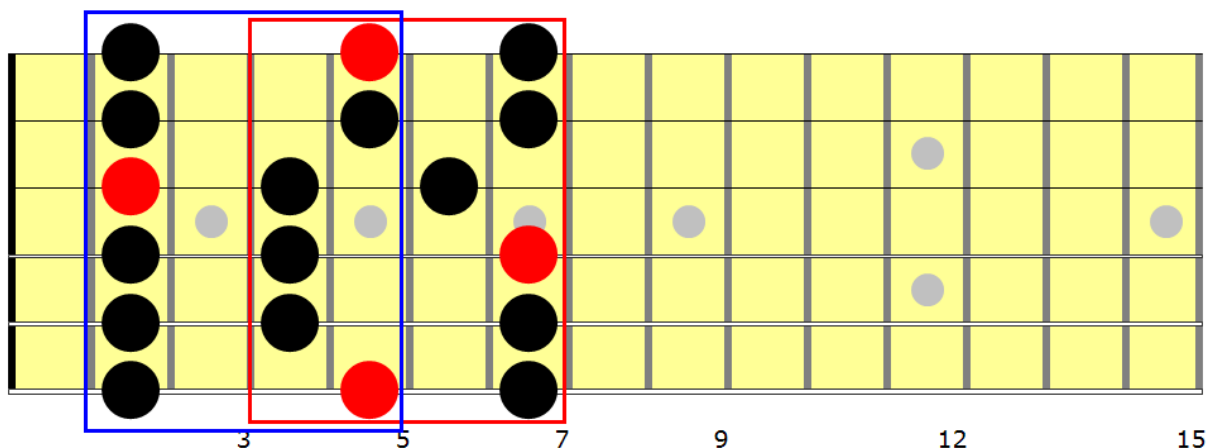
このポジションも比較的、ミクソリディアンとして使いやすい部分です。

ここは、6弦トニックで言えば、他にはGリディアンのポジションと見ても良いですね。

スケールポジションは覚えれば覚えるほど、他のものと重複していくので、やはり、毎日少しでもいいので、地道に取り組んでいくのが一番早いです。

では最後に、Aミクソリディアンと関係性の高い、ペンタ系のポジションを見ていきましょう。

図4、Aメジャーペンタトニックスケール、6弦トニック重要ポジション



この二つは先に載せた、図1、図3のミクソリディアンのポジションと完全に重複します。

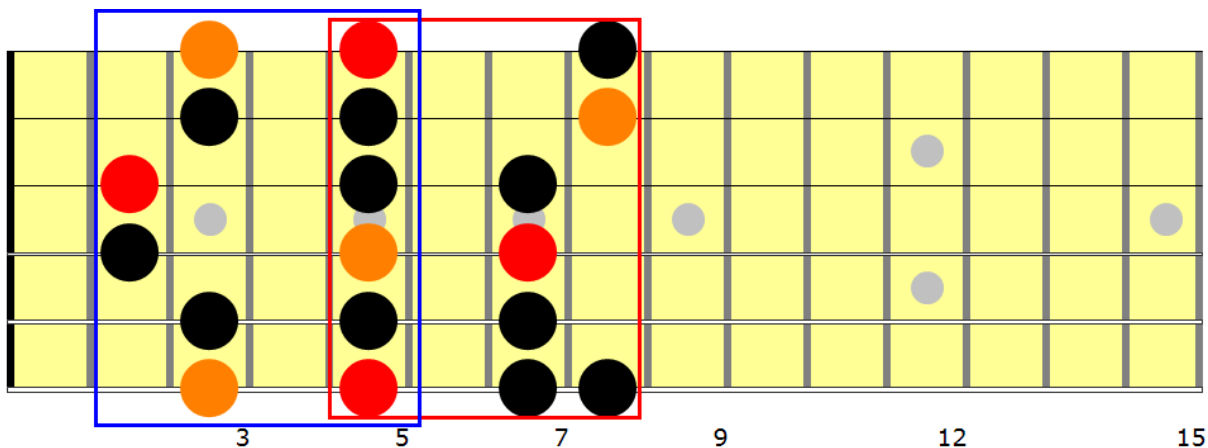
6弦にトニックを見たポジションとしては、この二つの使用頻度が高いかと思います。

メジャーペンタは、7音構成のメジャー系ダイアトニックスケール(アイオニアン、リディアン、ミクソリディアン)から4度と7度が抜けたものになっています。

それぞれ、インターバルを数えながら弾いてみて、構造の違いを把握しておきましょう。

次はマイナーペンタのポジションです。

図5、Aマイナーペンタトニックスケール、6弦トニック重要ポジション



さて、これはそもそもマイナー系スケールなので、メジャー系にはない音(m3rd音)が入っているのですが、ミクソリディアン比べるのであれば、これまで出した上記スケール群と大部分が一致しますね。(※ミクソリディアンにm7thが含まれているのが理由です)

赤枠で囲った代表的なポジションの他に、隣りの青枠の部分が見えてると、m7thなどの重要な音が見えやすくなるので、ここもついでに覚えてしまうことをお勧めします。

このテキストに載せた全てのスケールを、その時基準にするトニックから弾き分けられることを目標にしましょう。(※今回の例で言えば、6弦5フレットA音を基準に全て弾けるようにする、など)

個人的に、ブルースを含め、「ミクソリディアン系のスケールでプレイする」となった場合、まずはこれくらいの範囲を見てくださいね。

繰り返しになりますが、いきなり短期間で全てを覚えようとするのは、余程時間に余裕のある人以外は難しいと思いますので、焦らず1つずつマスターしていきましょう。

それでは、【ミクソリディアンスケール短期マスターコースvol.01】は以上になります。

次回に続きます。

ありがとうございました！

大沼

P.S.

スケール以外にも重要なものとして、「各コードの基本的なコード・トーン・アルペジオを全て覚える」ことがあります。そちらの方は、別途配布している「コード・トーン・アルペジオ講座(ctabtと言うファイル)」に全て動画付きで用意しています。

ドミナント7thに関しては、vol.03と04で紹介しているので、そちらも合わせて覚えていきましょう。